

「自賠制度を考える会」が政府・与野党に要望

齊藤国交大臣、秋野財務副大臣、 額賀自動車議連会長などに要望書を手渡す



齊藤国交大臣に要望書を手渡す「考える会」メンバー。
左から山岡専務理事、加藤保険特別委員長、横山副代表、桑山代表、齊藤大臣、福田座長、坂回会長、金子会長

自

自動車損害賠償保障制度を考える会（座長＝日本大学危機管理学部・福田弥夫学部長、以下「考える会」）は11月11日に齊藤鉄夫国土交通大臣、秋野公造財務副大臣、額賀福志郎自民党自動車議連会長、国民民主党（自動車総連顧問議員）磯崎哲史参議院議員、浜口誠参議院議員など政府・与野党を訪ね、自賠責保険料積立金が特別会計から一般会計に繰り入れられ、いまだ約6,000億円が返済されないままになっている問題について、繰戻し額のさらなる増額と今後の全額返済に向けての一層の取り組みを強く求める要望書を手渡しました。

一般会計からの繰戻しは、2018年度（平成30年度）予算にて23.2億円、2019年度（令和元年度）37.2億円、2020年度40.3億円、2021年度47億円、2022年度54億円と5年連続で実現しており、2023年度予算でもその金額や内容が議論されています。昨年12月、財務大臣・国交大臣との合意文書には「令和4年度の繰戻し額である54億円を最低ラインとしつつ、合意期間である今後5年間、継続的に繰戻しを実施する」旨などが記載されています。

齊藤国交大臣との面会では、福田座長から昨年の大臣間合意への感謝とともに、合意が遵守され繰戻額も増額になることを願っている旨、要望しました。さらに、6月に改正された自動車損害賠償保障法に自動車事故対策事業が本則に恒久的に実施することが書き込まれたことにも触れ、「新たな賦課金の導

入に当たり、附帯決議にもあるように自動車ユーザーの理解が不可欠である」と訴えました。また、「考える会」のメンバーである「全国遷延性意識障害・家族の会」の桑山雄次代表・横山恒副代表から交通事故被害者の実情や思いについて率直にお話いただきました。

それに対し齊藤国交大臣は「本日うかがったお話を財務省との折衝に活かしていきたい。介護者なき後の問題は安心感のあるものにならなければならないと改めて実感しました。新たな賦課金をいただくことについては国会の附帯決議を踏まえて自動車ユーザーのご理解をいただけるよう、必要性について丁寧な説明とPRと国民への広報を行ってまいりたい」などと応じました。

また、秋野財務副大臣との面会では、「考える会」の福田座長は、合意期間の初年度として2023年度予算における繰戻額のさらなる増額と、今後の全額返済に向けてのロードマップを強く求めました。秋野財務副大臣からは大臣間合意に基づき、しっかりと遂行していく旨のご発言がありました。

「考える会」では、今後とも適宜、要望活動を実施してまいります。

■陳情に参加した「考える会」メンバー
（順不同、敬称略）

○福田 弥夫

日本大学危機管理学部学部長（座長）

自動車安全特別会計からの一般会計繰入金に係る要望

令和4年11月11日
自動車損害賠償保障制度を考える会

自動車損害賠償保障制度は、自動車ユーザーの支払った保険料で、不幸にして交通事故の被害に遭った人たちの救済を確かなものにするための、世界に誇れる共助の仕組みです。

とりわけ、自賠責の保険料から交通事故被害者への支援を中心とする交通事故対策のために積立てられた資金は、被害者やその家族の命を支える様々な事業に用いられますが、この積立金は、特別会計から一般会計に貸し出されたまま、未だに5,952億円(令和4年度末見込)が返済されずにいます。

被害者救済対策の重要性、ならびに事業の持続可能性を踏まえた判断により、平成30年度予算にて23.2億円、令和元年度37.2億円、令和2年度40.3億円、令和3年度47億円、令和4年度54億円と、5年連続で一般会計から繰戻されました。また、令和3年12月、新たに財務大臣と国土交通大臣との間で交わされた合意文書において、単年度予算編成が基本となる中、実質的には令和4年度の繰戻し額である54億円を最低ラインとしつつ、合意期間である今後5年間、継続的に繰戻しを実施する旨などが記載されたことは我々の要望を汲み取った結果と受け止めております。

昨年の交通事故死者数が統計開始以来最小の2,636名となった現在においても、介護を必要とする重度後遺障害者数は横ばいの状況が続いております。令和3年7月に取りまとめられた「今後の被害者救済対策のあり方に関する検討会」報告書において、介護者なき後への備えを含めた事故被害者救済の充実が提示されたことは、中長期的に問題が深刻化している事故被害者並びにその家族の状況に鑑みた対応であり、さらに、「今後の自動車事故対策勘定のあり方に関する検討会」においても被害者等支援対策・自動車事故発生防止事業の充実・強化について、引き続き検討がなされています。

先の通常国会において、自動車損害賠償保障法が改正され、自動車事故対策事業が本則に恒久的に実施することが書き込まれ、拡充した賦課金を財源に「被害者支援」・「事故防止」を持続的に実施できる枠組みは整いました。しかしながら、本制度導入にあたっては、衆議院・参議院双方において附帯決議事項があることを忘れてはなりません。

令和5年度予算における繰戻額の更なる増額と併せ、老朽化の進む療護センターの建替も迫っていることから、今後の全額返済に向けた一層の取組を強く求め、附帯決議に記された事項の中で、特に以下の2項目を要望いたします。

1. 繰入金残額の約6,000億円全額を被害者支援対策・事故防止対策が安定的・継続的に将来にわたって実施されるよう、令和3年12月の新たな大臣間合意を最低限遵守し、一般会計から早期かつ着実に繰戻す措置を講ずること
2. 新たな賦課金の導入にあたっては、被害者支援対策・事故防止対策に係る取組の現状及び課題について積極的に情報を発信し、その必要性について丁寧な説明を行うなど自動車ユーザーの理解が得られるよう努めること

以上

○桑山 雄次

全国遷延性意識障害者・家族の会代表

○横山 恒

全国遷延性意識障害者・家族の会副代表

○坂口 正芳

日本自動車連盟 (JAF) 会長

○金子 晃浩

全日本自動車産業労働組合総連合会会長

○加藤 憲治

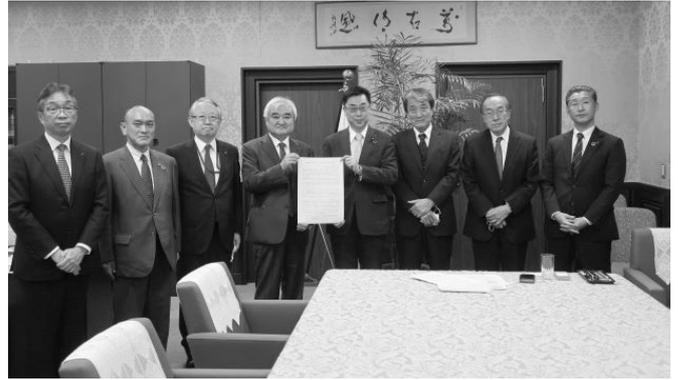
日本自動車会議所保険特別委員長

○山岡 正博

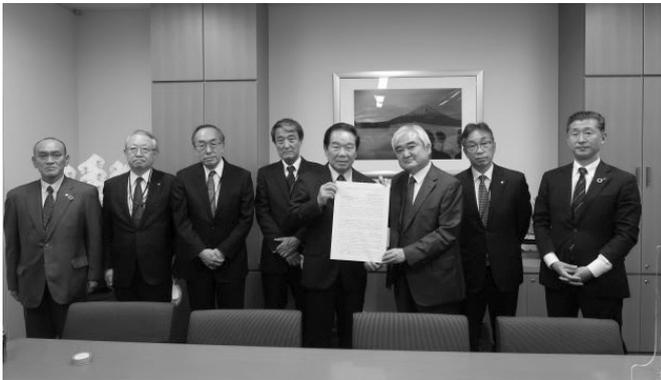
日本自動車会議所専務理事



桑山代表（左から2人目）と横山副代表（左）から熱心にお話を聞かれる斉藤大臣（右）



秋野財務副大臣に要望書を手渡す「考える会」メンバー。左から山岡専務理事、加藤保険特別委員長、坂口会長、福田座長、秋野財務副大臣、桑山代表、横山副代表、金子会長



額賀自民党自動車議連会長に要望書を手渡す「考える会」メンバー。左から加藤保険特別委員長、坂口会長、横山副代表、桑山代表、額賀会長、福田座長、山岡専務理事、金子会長



自動車総連顧問議員に要望書を手渡す「考える会」メンバー。左から加藤保険特別委員長、坂口会長、横山副代表、桑山代表、福田座長、磯崎参議院議員、浜口参議院議員、金子会長、山岡専務理事

今年も「ツイッター」へ投稿しユーザーに訴求

カー太くんがクルマのおかしな税金を4コママンガで解説

自動車税制改革フォーラム

11月から毎週金曜日に8回程度投稿

自動車税制改革フォーラム（事務局：日本自動車会議所）は、若者をはじめ広く一般にアピールできるツイッター（Twitter）を活用した訴求活動を今年も実施し、同フォーラムのイメージキャラクター「カー太くん」が自動車税制の問題をユーザーに訴えています。11月4日からスタートしており、走れば走った分だけ課税される走行距離課税の導入検討が唐突に浮上しネット上で反対の大合唱となったことや、エンジンなどの動力のないトレーラーにも自動車税の環境性能割が課税されていることなど、「クルマのおかしな税金」をテーマに毎週金曜日にカー太くんがツイート。4コママンガも掲載するなど、複雑なクルマの税制をカー太くんが分かりやすく解説しています。12月中旬までに8回程度、投稿する予定です。

○アカウント=https://twitter.com/carta_jp



12月2日に投稿された「走行距離課税反対」のツイート